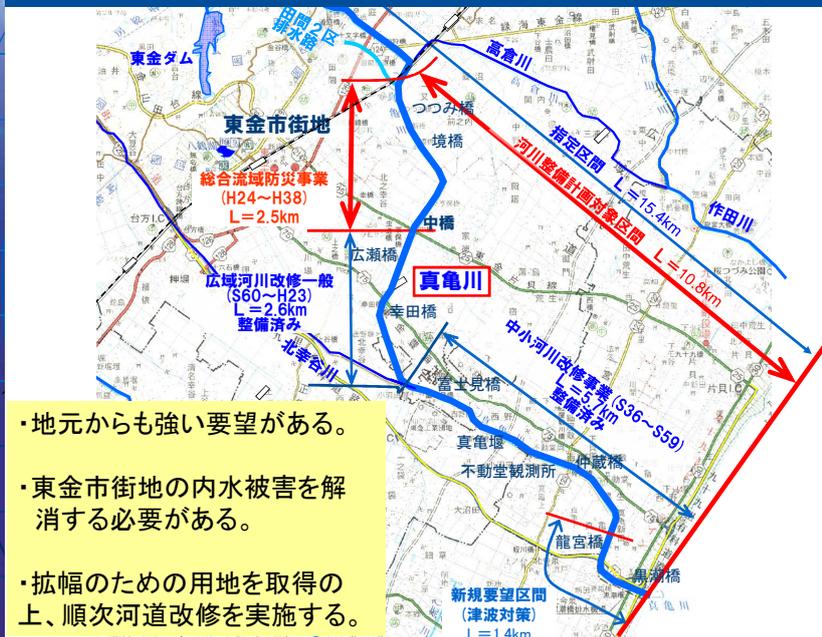


5. 事業の進捗の見込みの視点（洪水対策）



- 地元からも強い要望がある。
- 東金市街地の内水被害を解消する必要がある。
- 拡幅のための用地を取得の上、順次河道改修を実施する。

24

6. コスト縮減や代替案立案の可能性の視点（洪水対策）

計画の見直しによるコスト縮減

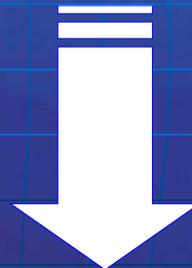
工事において発生する掘削土や発生コンクリート塊を再利用して、築堤や護岸等を整備。

代替案の検討

代替案として、調節池等によって流出抑制を図る方法が考えられるが、下流から整備が進んでいるため調節池の効果は余裕扱いとなること、用地買収面積が少なくて済むことから、河道改修案が最も有利と判断。



既設護岸等のコンクリート塊の再利用



今後も新工法等の適用や効果的な整備手法を検討し、維持管理を含めて、効率的な改修に努める

25

7. 事業の必要性に関する視点（津波対策）

② 事業の投資効果



26

7. 事業の必要性に関する視点（津波対策）

③ 事業の進捗状況



27

8. 事業の進捗の見込みの視点（津波対策）

- 地元説明会の開催の結果
津波対策における地元意識が高く、
早期完成を望んでいる。

28

9. コスト縮減や代替案立案の可能性の視点（津波対策）

津波防御方式

- 津波防御方式は、「堤防方式」「津波水門方式」
- 「津波水門方式」は、地震時に確実に閉鎖できる施設や、津波発生時における操作員の安全性の確保、さらに定期的なメンテナンスなど多くの課題がある。



河川津波対策には「堤防方式」を採用。

29

10. 対応方針(案)

(1) 事業の必要性に関する視点

① 社会経済情勢等

- ・人々の防災意識の向上から、河口付近での津波対策への関心が高い。
- ・未整備区間での内水被害は治まっていない。

② 事業の投資効果

- ・費用対効果 $B/C = 2.0 > 1$
- ・確率規模1/10年以下の浸水被害の解消(想定はん濫区域約450a→浸水なし)

③ 事業の進捗状況

- ・事業進捗率=約77%

(2) 事業の進捗見込みの視点

- ・地元からも強い要望がある。
- ・東金市街地の内水被害を解消する必要がある。

(3) コスト縮減や代替案の可能性。

- ・用地買収面積が少なくて済み、調整池設置等の代替案よりも現計画推進が有利。

30

10. 対応方針(案)

対応方針(案)

河川整備計画に定めた整備区間の内、
残事業区間について、事業を「**継続**」し、
津波対策事業を「**追加**」して、計画的に事業完了を図る。

河川整備計画の目標

1. 目標流量を安全に流す、目標津波を越水させない
2. かんがい期において農業用水の利用に障害を生じさせないような河川構造とする
3. 現存する自然生態系の復元を図るため、滞筋や水際の復元等、施工時に適切な工夫を行う。
に基づき、川幅の拡幅、河床の掘削、築堤等を行う

31